

## 資料 2

1	令和の魅力と活力ある県立高校	・・・ 1
2	中学校卒業予定者数と平均学級数(全日制)の推移及び見込み	・・・ 3
3	令和3年度県内における1学年の生徒を募集した高校数と定員	・・・ 4
4	県立高校(全日制)の配置	・・・ 5
5	県立高校(全日制)の学区別配置状況	・・・ 6
6	県立高校(全日制)学区別募集学科構成	・・・ 7
7	本県の県立高校の現状と課題	・・・ 8

# 1 令和の魅力と活力ある県立高校

中央教育審議会の答申より

## (1) 教育を取り巻く環境の変化

- ◎ 新学習指導要領<sup>\*1</sup>の着実な実施
- ◎ 社会のあり方が劇的に変わるSociety5.0の時代の到来
- ◎ 持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえた持続可能な社会づくり
- ◎ 少子高齢化、人口減少による人口構造の変化
- ◎ 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な困難な時代

## (2) 新時代に対応した高等学校教育等の在り方について

- ◎ 高等学校は、今日では中学校を卒業したほぼ全ての生徒が進学する教育機関となっている。それゆえ、多様な入学動機や進路希望、学習経験、言語環境など、様々な背景を持つ生徒が在籍していることから、義務教育において育成された資質・能力をさらに発展させながら、生徒の多様な能力・適性、興味関心等に応じた学びを実現することが必要である。
- ◎ 高校生の現状の一つとして、学校生活への満足度や学習意欲が中学校段階に比べて低下しており、高等学校における教育活動を、高校生を中心に据えることを改めて確認し、その学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するためのものへと転換することが必要である。

## (3) 高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高等学校の特色化・魅力化

- ◎ 専門学科改革<sup>\*2</sup> (第2回検討内容)
- ◎ 普通科改革<sup>\*3</sup> (第3回検討内容)
- ◎ 総合学科における学びの推進<sup>\*4</sup> (第3回検討内容) (※2~4 は8ページへ)
- ◎ 高等教育機関や地域社会等との連携・協働 (第2,3回の検討内容に含む)
- ◎ スクール・ミッションの再定義<sup>\*5</sup> (設置者)
- ◎ スクールポリシーの策定<sup>\*6</sup> (各学校)

## (4) 定時制・通信制課程、STEAM教育について

- ◎ 定時制・通信制課程における多様な学習ニーズへの対応と質保証
- ◎ STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成

## 《 注 釈 》

### ※1 新学習指導要領

○学習指導要領とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準。およそ10年に1度、改訂している。教科書や時間割はこれを基に作られている。高等学校では、2022年度(令和4年度)より、新しい学習指導要領がスタートする。

#### ○新学習指導要領のポイント

##### ①社会に開かれた教育課程

教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。

##### ②育成を目指す資質・能力

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」とい学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、すべての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つの柱で再整理。

##### ③カリキュラム・マネジメント

学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立。

##### ④「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められるため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要。(子供たちの「学び」そのものが、「アクティブ」で意味あるものになっているという視点から授業をよりよくしていくことが必要。)

### ※5 スクール・ミッションの再定義 (文部科学省通知より)

○スクール・ミッションについて、文部科学省は、①在籍する生徒及び教職員その他の学校内外の関係者に対して分かりやすく当該高等学校の役割や教育理念を示すものとなるよう再定義することが望ましいこと、②スクール・ミッションの再定義は、各地域や高等学校の実情等を踏まえ、各設置者において適切な時機を捉えて行うことが望まれること、としている。策定する際には、各地域や学校の実情等、学校の意向を十分に聞きながら行うことになる。

## ※6 スクール・ポリシーの策定

### 1 経緯

「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）」(R2.11.13 中教審WG) 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」(R3.1.26 中教審)



[ 学校教育法施行規則、高等学校設置基準の一部を改正 ]

「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について(通知)」(R3.3.31 文科省)

### 2 「三つの方針」(スクール・ポリシー)の策定について

#### ア 根拠法令 [学校教育法施行規則の改正 (R3.3.31 公布、R4.4.1 施行) ]

第三条の二 高等学校は、当該高等学校、全日制の課程、定時制の課程若しくは通信制の課程又は学科ごとに、次に掲げる方針を定め、公表するものとする。  
一 高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針  
二 教育課程の編成及び実施に関する方針  
三 入学者の受入れに関する方針

#### イ 目的

- ・高等学校教育の入口から出口までの教育活動を一貫した体系的なものへと再構成
- ・特色・魅力ある教育の実現に向けた整合性のある指針として「三つの方針」を策定・公表

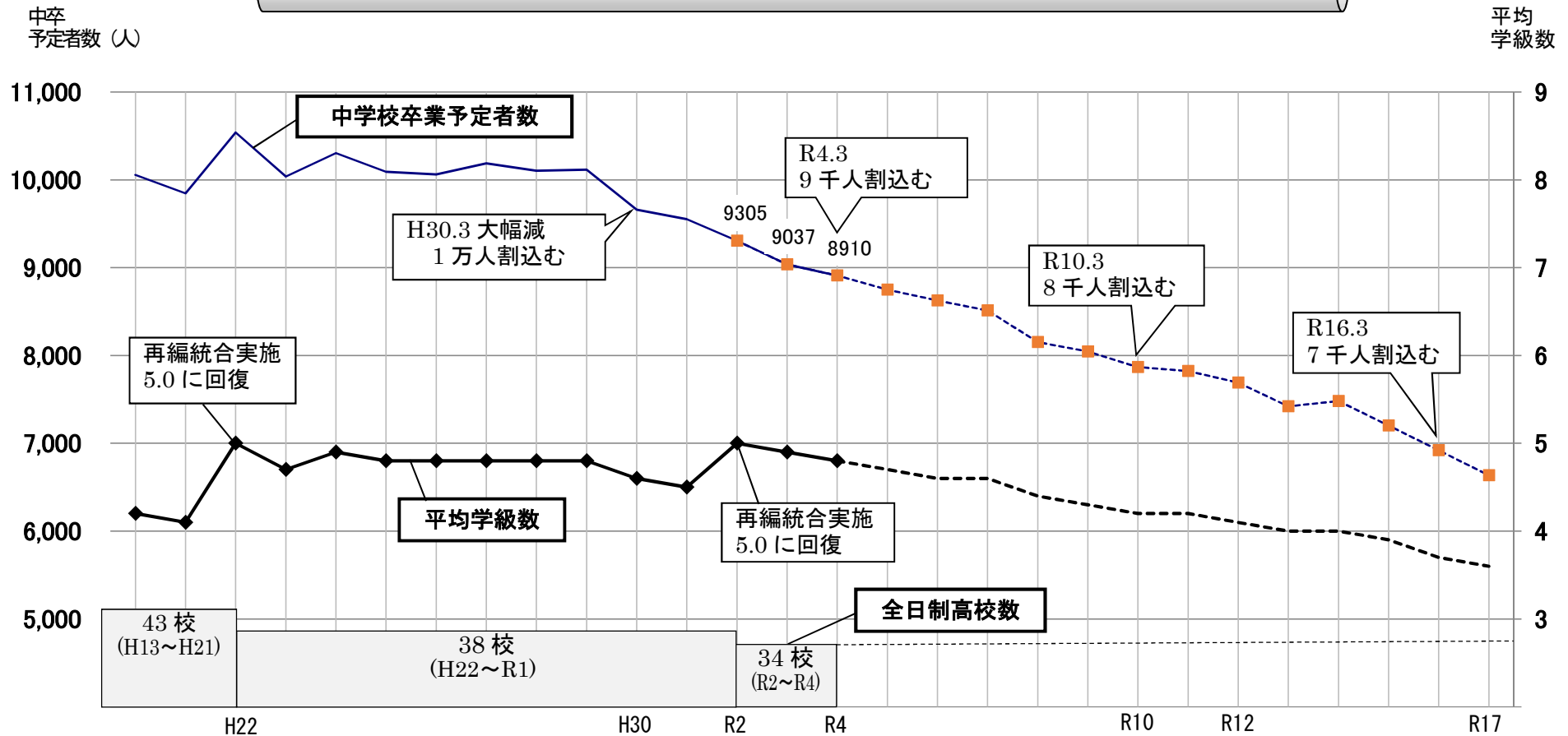
#### ウ 方針

- ・育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)  
各高等学校における社会的役割等に基づき、生徒の卒業後の姿を見据えて、学校教育活動を通じ生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを定める基本的な方針となるもの  
→ 各高等学校における資質・能力を明確化・具体化
- ・教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)  
育成を目指す資質・能力に関する方針を達成するために、どのような教育課程を編成し、実施し、学習評価を行うのかを定める基本的な方針となるもの  
→ カリキュラム・マネジメントを通じて、学校全体の教育活動の組織的・計画的な改善
- ・入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)  
各高等学校に期待される社会的役割等や、育成を目指す資質・能力に関する方針と教育課程の編成及び実施に関する方針に基づく教育内容等を踏まえ、入学時に期待される生徒像を示す基本的な方針となるもの
- ・スクール・ポリシーを基準にして、高等学校の教育活動や業務内容を精選・重点化
- ・学校評価において、スクール・ポリシーに照らして自らの取組を点検・評価

#### エ 策定スケジュール

現在、各高等学校において策定中であり、令和4年度前半には各学校で公表してもらうこととしている。

## 2 中学校卒業予定者数と平均学級数(全日制)の推移及び見込み



※ 全日制高校数は1学年を募集している学校数

※ 中学校卒業予定者数の算出について、H20年～R3年は学校基本調査(各年5月1日)、R4年～R12年は県教委調査(R3年5月1日)を基にした生徒数。R13年～R17年は県の人口移動調査(R2年10月1日)に基づく推定値

※ R5年以降の平均学級数(学級数÷学校数)は、公私比率を71.6%と仮定し、学校数を34校で維持した場合の見込み

### 3 令和3年度県内における1学年の生徒を募集した高校数と定員

- ・令和3年度1学年の生徒を募集した全日制課程のある高校は、県立、私立を合わせて44校ある。その他、定時制・通信制課程のある県立高校が6校（内1校は全日制・定時制を併置）ある。

令和3年度

学区 課程		新川学区		富山学区		高岡学区		砺波学区		全学区	
		学校数	定員	学校数	定員	学校数	定員	学校数	定員	学校数	定員
全日制課程	県立	7	1,210	12 <small>(全定併置1)</small>	2,630	10	1,830	5 <small>(分校1)</small>	800	34 <small>(全定併置1) (分校1)</small>	6,470
	私立	1	130	6	1,265	3	625	—	—	10	2,020
	合計	8	1,340	18 <small>(全定併置1)</small>	3,895	13	2,455	5 <small>(分校1)</small>	800	44 <small>(全定併置1) (分校1)</small>	8,490
定時制課程	県立	1	約160	2 <small>(全定併置1) (定通併置1)</small>	約400	1	約240	2 <small>(分校1)</small>	約160	6 <small>(全定併置1) (定通併置1) (分校1)</small>	約960
通信制課程	県立	—	—	1 <small>(定通併置1)</small>	約300	—	—	—	—	1 <small>(定通併置1)</small>	約300
学校数計		9		19 <small>(全定併置1) (定通併置1)</small>		14		7 <small>(分校2)</small>		49 <small>(全定併置1) (定通併置1) (分校2)</small>	

(参考)

( ) は内数

中学校卒業 予定者数 (令和3年3月)	1,676	3,668	2,548	1,145	9,037
---------------------------	-------	-------	-------	-------	-------

- ・中学校卒業予定者数に占める募集定員の割合は、従来から、富山県公立高等学校連絡会議の合意を尊重して設定している。
- ・令和2～4年度における全日制高校の募集定員の割合は、県立が71.6%、私立が22.4%となっている。

## 4 県立高校（全日制）の配置



※ 令和4年度設置校

## 5 県立高校（全日制）の学区別配置状況

令和4年度

学級数/学年（学校数）		新川学区	富山学区	高岡学区	砺波学区
8学級	(1)		富山工業 (工8)		
7学級	(5)		富山 (普5探2)	高岡 (普5探2)	南砺福野 (普4国1農1福1)
			富山中部 (普5探2)	高岡工芸 (工7)	
6学級	(5)		富山北部 (普3工2商1)	氷見 (普3農水1商1家1)	
			富山商業 (商6)		
			富山東 (普6)		
			呉羽 (普6)		
5学級	(6)	入善 (普4農1)	富山いずみ (総4看1)	高岡商業 (商5)	
		桜井 (普3工1家1)	富山南 (普5)		
		滑川 (普2工1商1水1)			
4学級	(11)	魚津 (普4)	八尾 (普4)	小杉 (総4)	砺波 (普4)
		上市 (総4)	富山西 (普4)	新湊 (普3商1)	砺波工業 (工4)
		雄山 (普3家1)		高岡南 (普4)	石動 (普3商1)
3学級	(5)	魚津工業 (工3)	中央農業 (農3)	大門 (普3)	
				伏木 (国3)	
				福岡 (普3)	
2学級	(0)				
1学級	(1)				南砺平 (普1)
学級数	163	30	67	46	20

( )は、1学年の学級数

## 6 県立高校（全日制）学区別募集学科構成

大学科	学級数	定員	小学校	新川学区			富山学区			高岡学区			砺波学区				
				学校	学級数	定員	学校	学級数	定員	学校	学級数	定員	学校	学級数	定員		
普通系学科	普通	87	3,460	入善 魚津 桜井 雄山 滑川	4 4 3 3 2	160 160 120 120 80	富山東 呉羽 富山 富山中部 富山南 八尾 富山西 富山北部	6 6 5 5 5 4 4 3	240 230 200 200 200 160 160 120	高岡 高岡南 大門 新湊 福岡 氷見	5 4 3 3 3 3	200 160 120 120 120 120	砺波 南砺福野 石動 南砺平	4 4 3 1	160 160 120 30		
	理数・英語	6	240	理数科学・ 人文社会科学*			富山 富山中部	2 2	80 80	高岡	2	80					
	国際	4	150	国際 国際交流						伏木	3	120	南砺福野	1	30		
	計	97	3,850			16	640		42	1,670		26	1,040		13	500	
職業系専門学科	農業	6	158	農業 生物生産 園芸デザイン バイオ技術 農業科学 農業環境	入善	1	30	中央農業	3	78	氷見	1*2	20	南砺福野	1	30	
				水産	2	60	海洋 海洋科学										滑川
	工業	26	1,030	機械	魚津工業	1	40	富山工業	2	80	高岡工業	1	40	砺波工業	2	80	
				機械工学				富山工業	2	80	高岡工業	1	40				
				電子機械				富山工業	1	40	高岡工業	1	40				
				電子機械工学				富山工業	1	40	高岡工業	1	40	砺波工業	1	40	
				電気	魚津工業	1	40	富山工業	2	80							
				電気工学				富山工業	2	80					砺波工業	1	40
				電子													
				情報環境	魚津工業	1	40										
				金属工学				富山工業	1	40			高岡工業	1	40		
				建築									高岡工業	1	40		
				建築工学				富山工業	1	40			高岡工業	1	40		
				工芸									高岡工業	1	30		
				デザイン・絵画									高岡工業	1	40		
	土木環境									高岡工業	1	40					
	土木	桜井	1	40													
土木工学				富山工業	1	40											
薬業	滑川	1	40														
くすり・バイオ				富山北部	2	80											
商業	16	640	商業	滑川	1	40				新湊	1	40	石動	1	40		
			ビジネス						氷見	1	40						
			流通ビジネス				富山商業	2	80	高岡商業	2	80					
			国際ビジネス						高岡商業	1	40						
			ビジネスマネジメント				富山商業	1	40								
			会計ビジネス				富山商業	1	40	高岡商業	1	40					
			情報ビジネス				富山商業	2	80	高岡商業	1	40					
			情報デザイン				富山北部	1	40								
家庭	3	110	生活環境	桜井	1	40											
			生活文化	雄山	1	30											
			生活福祉							氷見	1	40					
看護	1	40	看護			富山いづみ	1	40									
福祉	1	30	福祉								南砺福野	1	30				
計	55	2,068			10	380		21	798		17	630		7	260		
総合学科	総合	12	460		上市	4	150	富山いづみ	4	150	小杉	4	160				
	計	12	460			4	150		4	150		4	160		-	-	
総計	164	6,378			30	1,170		67	2,618		47	1,830		20	760		

「令和4年度富山県立学校募集定員等」(R3.7発表)による

\*1 理数科学科と人文社会科学科は、探究科学科と総称している

\*2 氷見高校の農業科学科と海洋科学科は、農業と水産のそれぞれに1学級として集計



7 本県の県立高校の現状と課題

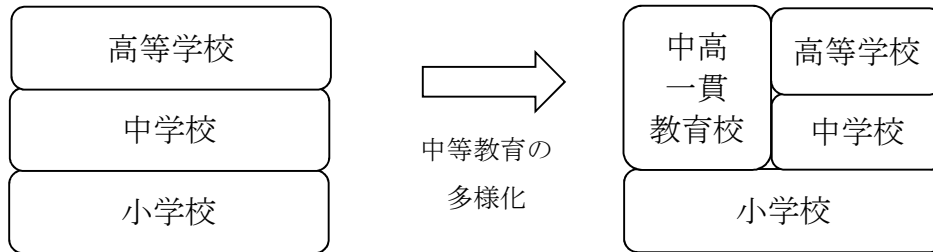
	高校教育に求められるもの	本県の現状と課題
職業系専門学科 (1ページ※2 関連)	<p>◇産業界と一体となって地域産業を支える革新的職業人材の育成（専門学科改革） ※産業界と高校が一体となった社会に開かれた教育課程の推進 ・地域の産学官の関係者が一体となり将来の地域産業界のあり方を検討 → 専門高校段階での人材育成のあり方を整理 → 社会に開かれた教育課程の推進（企業と一体となった教育課程、教師の資質・能力の向上と施設・設備の充実） ※高等教育機関と連携した一貫した教育課程の開発・実施  (中央教育審議会の答申（令和3年1月26日）)</p> <p>◇農業科 ○農作物の栽培など実践的な学習を通じた人間教育に貢献 ○本県において、農業が果たしている役割が大きい ●農業科卒業後の関連就職率が低い ●中学生の農業科への入学希望者数が募集定員を下回っている</p> <p>◇水産科 ○専門分野の実習を通じた人間教育に貢献 ●水産科卒業後の関連就職率が低い</p>	<p>◇工業科 ○製造業を中心とした地域産業の担い手育成が重要 ○工業科卒業生の関連就職率が高い ○ものづくり産業が盛んな日本海側屈指の工業県</p> <p>◇商業科 ○ビジネスに関する実践的な学習を通じた人間教育に貢献 ●中学生の商業科への入学希望者数が募集定員を下回っている △大学・短大等高等教育機関での学習を希望する生徒の割合が高くなってきている</p> <p>◇家庭科 ○服飾・食物など実践的な学習を通じた人間教育に貢献 ●家庭科卒業後の関連就職率が低い △生活を取り巻く社会の変化や生徒の進路が多様化している</p> <p>◇看護科 ○中学生の看護科への入学希望者数が募集定員を上回っている △看護医療の高度化に伴う看護師の資格基準の改正</p> <p>◇福祉科 △県内の介護福祉士養成校(介護福祉士の養成課程を持つ福祉科)が全体で4校 △介護・福祉ニーズの多様化・高度化に伴う介護福祉士の資格基準の改正</p>
普通系学科 (1ページ※3 関連)	<p>◇「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化（普通科改革） ※文系・理系の類型にとらわれずに、生徒の特性を踏まえた学習の機会を提供</p> <p>①学際領域に関する学科 ・現代的な諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科</p> <p>②地域社会に関する学科 ・現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元市町村を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科</p> <p>③その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科  (中央教育審議会の答申（令和3年1月26日）等)</p>	<p>◇普通科コース ○生徒の興味・関心に応じた特定分野の科目選択が可能 ●少子化により、コースとして十分な魅力を発揮できていないコースがみられる ・コース設置校 入善(自然科学、観光ビジネス)、八尾(福祉)、富山北部(体育)、富山南(国際) 富山東(自然科学)、呉羽(音楽)、大門(情報)、高岡南(人文科学)、福岡(英語) ( )内はコース名、___は1年次から開設</p> <p>◇国際科 ○国際関係及び外国語に特化</p> <p>◇地域活性化の取組み例 ・立山町との包括協定(雄山) ・地域密着型活動推進プロジェクト(上市) ・未来講座HIMI学、氷見市との包括協定(氷見) ・とやま地球学(南砺福野)</p>
総合学科 (1ページ※4 関連)	<p>◇新しい時代にこそ求められる総合学科における学びの推進 ※自分とは異なる興味・関心を持つ生徒と共に多様な科目を履修することで、自分の進路を見つめ直しつつ、多様な分野に関する知識及び技能や異分野と協働する姿勢といった資質・能力を育成</p> <p>①「産業社会と人間」を核として、他教科・科目等とのつながり及び2年次以降の学びとの接続を意識したカリキュラム・マネジメント ②自校では開設できない科目について、ICTの活用を伴った各高等学校のネットワーク化 ・他校の科目を履修・単位認定する仕組みの活用 ③外部人材や地域資源の活用を推進  (中央教育審議会の答申（令和3年1月26日）等)</p>	<p>◇「第3の学科」(上市、富山いずみ、小杉) ○普通教科と専門教科にまたがる幅広い履修科目の選択が可能 ○中学生の総合学科への入学希望者数が募集定員を上回っている ●普通系学科に対するニーズが高い ●生徒数の減少に伴い開設できる講座数が減少</p>
これまで検討されてきた様々なタイプの高校	<p>◇生徒一人一人の個性を伸ばす魅力ある高校づくり</p> <p>①6年間の継続的・計画的な全人教育を目標とする中高一貫校 ②ものづくりの中核となる総合的な工業科高校 ③思考力や探究力、表現力などの育成を目標とする普通系専門学科 ④生徒の多様な学習ニーズに応える総合選択制高校 ⑤弾力的な科目選択が可能な単位制高校</p> <p>〔県立学校教育振興計画 基本計画(平成19年12月)の「新しい学校の形態・仕組み」から抜粋：当時の新しいタイプの高校として提示されたもの〕</p>	<p>◇ものづくりの中核となる総合的な工業科高校(富山工業、高岡工芸) ○ものづくり産業に貢献できる人材を育成</p> <p>◇探究科学科(理数科学科、人文社会科学科)(富山、富山中部、高岡) ○探究力や課題解決能力等の育成 ○ゼミ形式による専門的な研究活動や進路に応じた発展的な学習が可能</p> <p>◇総合選択制高校(滑川、富山北部、氷見 など) ○学科の枠を超え、生徒の多様な学習ニーズに応じた科目選択が可能</p> <p>◇単位制高校(小杉、南砺福野 など) ○生徒の興味・関心や進路希望、学習ペースに応じた多様な科目選択が可能</p> <p>〔参考〕中高一貫校、国際バカロレア(IB)認定校などについては、本県に導入されていないタイプの学校</p>

## 〔参考〕中高一貫教育制度について

### 1 中高一貫教育制度

中高一貫教育は、生徒や保護者が、これまでの中学校・高等学校に加えて、6年間の中高一貫教育をも選択することができるようにすることにより、中等教育のより一層の多様化を推進するものとして、平成11年4月から制度化されている。

中高一貫教育校に、どのような学科を設けるか、さらには、どのような特色を持つ教育内容にするかは、学校の設置者である都道府県や市町村等が判断することになる。



従来（平成10年度まで）

現行（平成11年度以降）

### 2 中高一貫教育の特色

- ・安定した環境の中で、6年間の学校生活を送ることができる。
- ・6年間の計画的・継続的な教育指導を展開することができる。
- ・6年間にわたり生徒を把握することができ、個性の伸長や優れた才能を発見できる。
- ・学年の異なる生徒同士が共通の活動を通し、社会性や豊かな人間性を育成できる。

### 3 中高一貫教育の実施形態

#### (1) 中等教育学校

- ・1つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもの。
- ・前期課程は中学校の基準を、後期課程は高等学校の基準を準用。

#### (2) 併設型の中学校・高等学校

- ・高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するもの。

#### (3) 連携型の中学校・高等学校

- ・市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態で、中学校と高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深めるもの。

## 4 入学者選抜

### (1) 中学入試

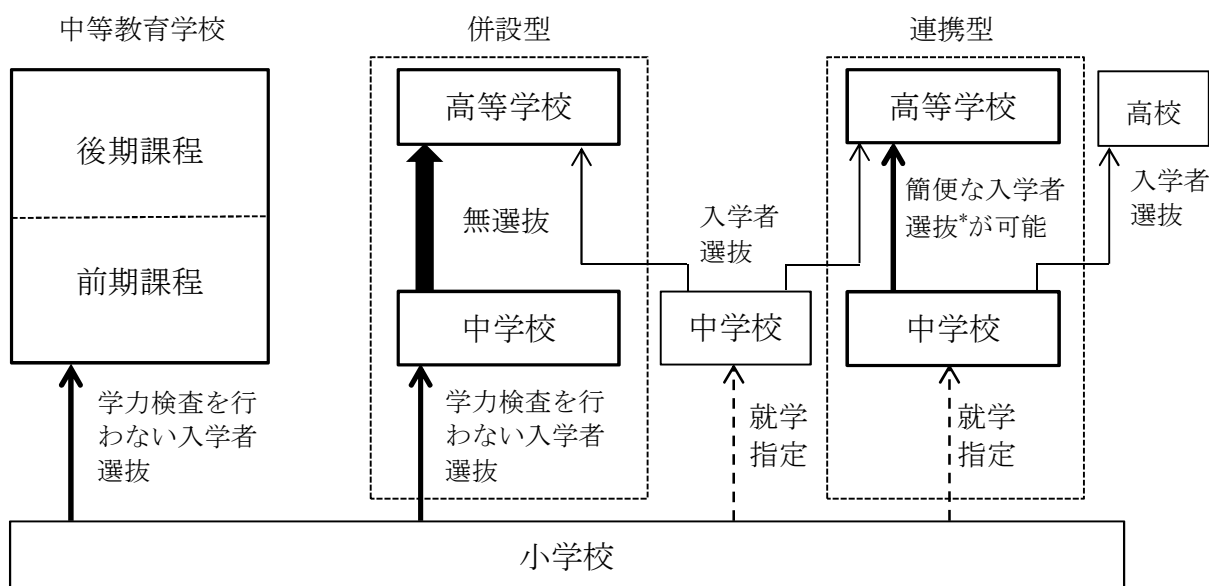
公立の中等教育学校や併設型中学校においては、設置者の定めるところにより校長が、入学者を許可し、この場合、学力検査は行わないこととしている。

### (2) 高校入試

併設型中学校から併設型高等学校への進学に際しては、入学者選抜は行わない。他の中学校から併設型高等学校への入学は入学者選抜が行われる。

連携型については、連携型中学校から連携型高等学校への進学の場合、調査書及び学力検査の成績以外の資料により選抜できていることになっている。

[公立の場合]



\*調査書及び学力検査の成績以外の資料による選抜

## 3 中高一貫教育校について

教育活動全般を通じた全人教育を目標とし、6年間の継続的、計画的な教育活動を行う中高一貫教育校は、多くの都道府県で設置されている。

本会議においても、社会を変革するリーダーの育成には全人格的な教育が必要との観点から、設置に積極的な意見がある。

一方で、市町村立中学校の学級編制等への影響から慎重に考えるべきとの指摘があり、また、連携型の中高一貫校設置には消極との意見もあることから、引き続き、慎重に検討することが望ましい。

(富山県県立高校教育振興会議の報告 (H30. 1. 19) より)

## 〔参考〕 国際バカロレア ( I B ) について

### (1) 国際バカロレア ( I B ) とは

国際バカロレア ( I B ) とは、課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラム。高校レベルのディプロマ・プログラム ( DP ) では、国際的に通用する大学入学資格 ( IB 資格 ) が取得可能であり、世界の大学入学者選抜で広く活用。未来投資戦略 2018 ( 2018 年 6 月閣議決定において、IB 認定校等を 2020 年度までに 200 校以上にするという目標 ( 2019 年 7 月現在 146 校 ) を掲げている。

#### 【国際バカロレアの教育プログラム】

##### ◇DP (ディプロマ・プログラム)

－16～19 歳を対象とした 2 年間のプログラム。主に高校で導入

##### ◇MYP (ミドル・イヤーズ・プログラム)

－11～15 歳を対象とした 5 年間のプログラム。主に中学で導入

##### ◇PYP (プライマリー・イヤーズ・プログラム)

－3～12 歳を対象とした 5 年間のプログラム。主に幼稚園、小学校で導入

### (2) 国際バカロレア ( I B ) に関する主な提言

- ・「日本再興戦略－JAPAN is BACK」 (平成 25 年 6 月 14 日閣議決定)  
一部の日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す。 (2018 年までに 200 校)
- ・「教育再生実行会議 第四次提言」 (平成 25 年 10 月)  
大学は、入学者選抜において国際バカロレア資格及びその成績の積極的な活用を図る。国は、そのために必要な支援を行うとともに、各大学の判断による活用を促進する。
- ・「教育再生実行会議 第七次提言」 (平成 27 年 5 月)  
国は、国際バカロレア認定校においては、学習指導要領と国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの双方を、無理なく満たせるようにするための措置を講じる。
- ・「日本経済団体連合会 「世界を舞台に活躍できる人づくりのために」－グローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言－」 (平成 25 年 6 月)  
語学力のみでなく、コミュニケーション能力や異文化を受容する力、論理的思考力、課題発見力などが身につく I B ディプロマ課程 (16 歳～19 歳対象) は、グローバル人材を育成する上で有効な手段の一つである。

### (3) 導入の効果と課題

- グローバル人材を育成するための有効な方策の一つである。
- 生徒の選択肢が広がる。
- 国内外への進路の多様化に途を開く。
- 教師と生徒双方に高い外国語能力が求められる。
- 高度な指導ができる教員の確保が難しい。
- カリキュラム開発等に時間がかかる。

#### (4) 国際バカロレア認定公立学校9校について

- 1 市立札幌開成中等教育学校 (MYP・DP (日本語 DP))
  - ・2015年4月開校 現在2期生が高3
- 2 宮城県仙台二華中学校・高等学校(DP (日本語 DP))
  - ・2021年4月 国際バカロレア類型開講
- 3 東京都立国際高等学校(DP)
  - ・2016年4月～ 現在4期生が高3
  - ・募集定員25名(4月日本人15名、外国人5名、9月5名)
- 4 神奈川県立横浜国際高等学校(DP (日本語 DP))
  - ・2019年4月～ 現在1期生が高3
  - ・募集定員25名(一般募集20名、特別募集(海外帰国生徒)5名)
- 5 山梨県立甲府西高等学校(DP (日本語 DP))
  - ・2020年4月～ 現在1期生が高2
- 6 滋賀県立虎姫高等学校(DP (日本語 DP))
  - ・2020年4月～ 現在1期生が高2
- 7 大阪市立水都国際中学校・高等学校(公設民営、DP (日本語 DP))
  - ・2019年4月開校 現在1期生が中3、高3まで在籍
- 8 広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 (MYP・DP (日本語 DP))
  - ・2019年4月開校 現在1期生が中3
- 9 高知県立高知国際中学校・高等学校 (MYP・DP (日本語 DP))
  - ・2018年4月開校 現在1期生が高1

◇日本語 DP-ディプロマ・プログラムの科目の一部を日本語でも  
実施可能とするプログラム

#### (5) 認定プロセスの概要 (4月申請の場合)

関 心 校	1年目1月	スクールインフォメーションフォーム提出
	1年目3月	候補校申請提出(4月1日締切)
	1年目4～7月	書類検討・候補校認定通知
候 補 校	1年目9月～2年目3月	コンサルタント決定・コンサルタント訪問
	2年目3月	認定校申請提出(4月1日締切)
	2年目4～9月	書類検討
	2年目10月	申請書フィードバック
	2年目11～12月	確認訪問
	3年目2～3月	確認通知
認 定 校	3年目4～8月	授業実施準備期間
	3年目9月	授業スタート